

日本標準商品分類番号 877219	
承認番号	21800AMX10341
薬価収載	2006年6月
販売開始	1991年12月
再審査結果	1998年3月(関節造影) 1999年3月(子宮卵管造影)



Isovist[®] Inj. 300

D6

■ 警告

- (1)ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。
- (2)本剤は子宮卵管・関節造影剤であるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。

■ 禁忌(次の患者には投与しないこと)

子宮卵管撮影	関節撮影
(1)ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者	
(2)妊婦又は妊娠している可能性のある患者〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与〕の項参照]	—
(3)骨盤腔内に急性炎症性疾患のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕	

- ** (3)重篤な腎障害(無尿等)のある患者〔本剤の主たる排泄臓器は腎臓であり、腎機能低下患者では急性腎障害等、症状が悪化するおそれがある。〕
- (4)重篤な心障害のある患者〔本剤と同一成分薬による脳槽・脊髄造影で血圧低下、不整脈等の報告があり、重篤な心障害患者においては症状が悪化するおそれがある。〕
- (5)慢性呼吸器疾患のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- (6)甲状腺疾患のある患者〔ヨード過剰に対する自己調節メカニズムが機能できず、症状が悪化するおそれがある。〕
- (7)多発性骨髄腫の患者〔多発性骨髄腫の患者で特に脱水症状のある場合、腎不全(無尿等)を起こすおそれがある。〕
- (8)高齢者〔高齢者への投与〕の項参照]

2. 重要な基本的注意

全効能撮影共通

- (1)ショック等の発現に備え、十分な問診を行うこと。
- (2)投与量と投与方法の如何にかかわらず過敏反応を示すことがある。本剤によるショック等の重篤な副作用は、ヨード過敏反応によるものとは限らず、それを確実に予知できる方法はないので、投与に際しては必ず救急処置の準備を行うこと。
- (3)ショック等の重篤な副作用があらわれることがあるので、投与にあたっては、開始時より患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。過敏反応の発現等異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、投与後も患者の状態を十分に観察すること。
- (4)遅発性副作用に備えて、検査終了数時間後にも副作用発現の可能性があることを患者に説明した上で、発疹、悪心等が発現した場合には速やかに主治医等に連絡するよう注意を与えること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

全効能撮影共通

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビグアナイド系糖尿病用剤 メトホルミン塩酸塩、 ブホルミン塩酸塩等	類薬で乳酸アシドーシスを起こしたとの報告があるので、異常が認められた場合には、ビグアナイド系糖尿病用剤の減量もしくは投与を中止するなど適切な処置を行うこと。	ビグアナイド系糖尿病用剤の腎排泄が減少し、血中濃度が上昇するためと考えられている。

4. 副作用

子宮卵管撮影

承認時及び使用成績調査での調査症例3,548例中206例(5.8%)に臨床検査値異常を含む副作用が認められ、主な副作用は腹痛[注入中]109件(3.1%)、腹痛[注入後]56件(1.6%)、嘔気28件(0.8%)、発熱22件(0.6%)、発疹15件(0.4%)等であった。(再審査終了時)

■ 組成・性状

販売名	イソビスト注300	
内容量(mL)	10	
成分・含量	1瓶(10mL)中、イオトロラン6407.5mg含有	
ヨード濃度(mg/mL)	300	
1瓶中のヨード含有量(g)	3.0	
添加物	エデト酸カルシウムナトリウム水和物(mg/瓶)	1.0
	炭酸水素ナトリウム(mg/瓶)	4.0
	pH調整剤(2成分)	適量
色・性状	無色～微黄色澄明のわずかに粘性のある注射液	
浸透圧比(生理食塩液に対する比)	約1	
粘稠度(mPa・s, 37℃)	約8.6	
pH	6.5～8.0	

■ 効能・効果

子宮卵管撮影
関節撮影

■ 用法・用量

子宮卵管撮影

通常、成人1回6～10mLを導管より子宮腔内に注入する。
なお、年齢、体重、撮影部位の大きさにより適宜増減する。

関節撮影

通常、成人1回1～10mLを関節腔内に注入する。
なお、年齢、体重、撮影部位の大きさにより適宜増減する。

■ 使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

全効能撮影共通

- (1)本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- (2)重篤な肝障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

関節撮影

承認時及び使用成績調査での調査症例637例中5例(0.8%)に副作用が認められ、主な副作用は発疹3件(0.5%)、疼痛2件(0.3%)等であった。(再審査終了時)

(1)重大な副作用

全効能撮影共通

1)ショック(頻度不明)：ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

**2)アナフィラキシー(頻度不明)：アナフィラキシー(顔面浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

下記の副作用があらわれることがあるので、このような場合には必要に応じ適切な処置を行うこと。

子宮卵管撮影

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	発疹、発赤、痒痒感		蕁麻疹
精神神経系		頭痛	
消化器	嘔気・嘔吐、下痢		
**内分泌系			甲状腺機能低下症
その他	検査の1～数時間後の発熱、下腹部痛	胸内苦悶感	

関節撮影

	0.1～1%未満	頻度不明
過敏症	発疹、発赤、痒痒感	
消化器		嘔気・嘔吐
**内分泌系		甲状腺機能低下症
その他	疼痛	

5.高齢者への投与

全効能撮影共通

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、患者の状態を十分に観察しながら慎重に投与すること。

6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

子宮卵管撮影	関節撮影
(1)妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。	(1)妊婦又は妊娠している可能性のある女性には診断上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射を伴う。]	
(2)動物(ラット静脈内投与)で乳汁中への移行が報告されているので、授乳中の女性には投与後一時的に授乳を避けるよう指導すること。	

7.小児等への投与

全効能撮影共通

新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない。]

8.臨床検査結果に及ぼす影響

全効能撮影共通

本剤投与により、甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる検査に影響を及ぼすことがある。したがって、これらの検査は本剤投与前に実施すること。[本剤投与後1ヵ月間はこれらの検査に影響を及ぼすとの報告がある。]

9.適用上の注意

	子宮卵管撮影	関節撮影
(1)投与経路	脳槽・脊椎造影には使用しないこと。	
(2)前処置	1)投与前に体温まで温めること。 2)投与前に水分制限はしないこと。	
(3)投与時	1)緩徐に注入すること。	-
	2)他の薬剤との混注はしないこと。 3)注入装置の洗浄が不十分な場合には、注入器内部に付着する残存液に由来する銅イオン溶出等によって、生成物(緑色等に着色)を生じるおそれがあるので、使い捨て以外の器具を用いる場合には内部の汚れに注意し、洗浄、滅菌を十分に行うこと。	
(4)投与後	投与後は水分補給を行い、造影剤の速やかな排泄を促すこと。	
(5)開封後	1回の検査にのみ使用し、余剰の溶液は廃棄すること。	

■薬物動態

(参考)

吸収・排泄

子宮卵管撮影

本剤100mgI/kgをウサギ子宮腔内に投与したところ、1日以内に尿及び腔からの流出液中に投与量の約97%が排泄された。本剤は子宮腔内投与後、主に腔口から直接排泄されたとともに、一部腹腔内に移行して、その後速やかに血中に吸収されて完全に尿中に排泄された¹⁾。

関節撮影

本剤100mgI/kgをウサギ後肢膝関節腔内に投与したところ、24時間以内にほぼ完全に尿中に排泄され、糞中への排泄あるいは投与部位での残存は認められなかった¹⁾。

■臨床成績

造影効果

子宮卵管撮影

比較臨床試験²⁾を含め第Ⅱ相及び第Ⅲ相臨床試験における有効率は94.8%(92/97例)であった。

関節撮影

第Ⅱ相及び第Ⅲ相臨床試験における有効率は次のとおりであった。

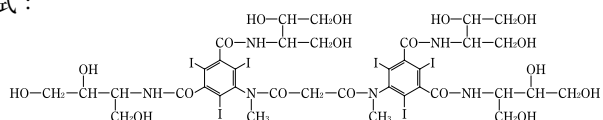
撮影の種類	有効率(撮影回数)
二重造影	96.7%(29/30)
陽性造影	93.8%(15/16)

■薬効薬理

本剤の主成分(イオトロラン)の構成元素であるヨウ素は高いX線吸収能をもつ。これに基づき、本剤の存在部位と他の生体組織との間にX線画像上のコントラストが生じる。

■ 有効成分に関する理化学的知見

構造式：



一般名：イオトロラン (Iotrolan)

化学名：A diastereomeric mixture of 5,5'-[malonylbis-(methylimino)]bis[N,N'-bis[2,3-dihydroxy-1-(hydroxymethyl)propyl]-2,4,6-triiodoisophthalamide]

分子式： $C_{37}H_{48}I_6N_6O_{18}$

分子量：1626.23

性状：本品は白色の粉末又は塊で、においはなく、味は甘い。
本品は水に極めて溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。
本品は吸湿性である。
本品の水溶液(1→10)は旋光性を示さない。

■ 包装

注射剤 瓶 10mL×5

■ 主要文献

- 1) 宮本好明他：基礎と臨床 27：4669(1993)
- 2) 百瀬和夫他：産婦人科の世界 42：275(1990)

■ 文献請求先

バイエル薬品株式会社・メディカルインフォメーション
〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目4番9号

■ バイエル医療用医薬品のお問い合わせ先

電話 0120-106-398